

資料1

科学技術イノベーションの戦略的国際展開
に向けた検討会（第2回）
平成27年9月29日（火）

第5期科学技術基本計画策定に向けた 戦略的国際展開に関する検討

平成27年9月29日

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

第5期科学技術基本計画における「国際」とは？

(命題) 第5期科学技術基本計画全体が国際を指向したものであるべきではないか？

ü これまでの 化という概念ではなく、すでにグローバル社会の舞台に立っていることを認識した上で、議論を進めるべきである。

第1回検討会の意見を踏まえ、国際を議論する際に欠如していた視点を中心に整理

- 第1章から全章において、国際的観念が網羅（串刺し）されているべきではないか。
- グローバル社会において、日本が孤立して生きていけないことは明白となっている。
- このため、デファクトや国際標準を決める国際的な場に日本が戦略的に食い込む必要があるのではないか。
- また、科学には国境がなく、国際的な競争力がないと科学自体がダメになるのではないか。
- 先端分野で国際的展開を強化することが日本にとってどのような意味を持つのか。
- さらに日本の国益(安全保障等を含む)と責任(福島教訓等)の視点が必要ではないか。
- 戦略的国際展開のイメージは、科学技術外交のスコープを更に拡大し、内野から外野に広げたようなものである。

- 「国際」の柱立て(章)は必要なのか。

検討の視点

第5期科学技術基本計画における戦略的国際展開はどうあるべきか。

u 目指すべき国の姿として

o グローバル社会における国際貢献（責任）と国益

これまでの 化という概念ではなく、すでにグローバル社会の舞台に立っていることを認識した上で、世界観を変えるアプローチを明確に打ち出す必要がある。 Insiderであるためには、Intellectual inputsが必要。シンクタンクの活用。

国益とは、単に利潤を指すものではなく、科学技術の振興（国際的広がり）、産業益、外交益、安全保障等を含むものであることを明示する必要がある。

u 基本方針

o 科学技術イノベーションの戦略的国際展開

ü 新たな戦略的パートナーシップの推進に向けて

- 国別（新興国、途上国、先進国）、二国間、マルチ、国際機関等

ü 多面的な科学技術外交の展開に向けて

日本だけでは成長できない（世界観・時代認識）

先読みして課題を設定（課題設定力）

戦略性が大事（戦略）

検討の視点

戦略的国際展開の具体的取組等について

u グローバル領域の開拓と新たな戦略的パートナーシップの形成

○グローバル領域を先取りする研究開発、新ビジネスの創出

ü基礎研究から産業化～どこに焦点をあてるのか

○インクルーシブ・イノベーションの推進

ü新興国・途上国、国際機関、多国間（ASEANなど）枠組等の活用

インクルーシブ・イノベーション：OECD, APEC, USAID, UNDPなどが推進

u 日本の顔が見える科学技術外交の展開

○世界動向の把握と科学技術予測

○国際会合等の活用と国際組織との連携強化（人材育成、活用を含む）

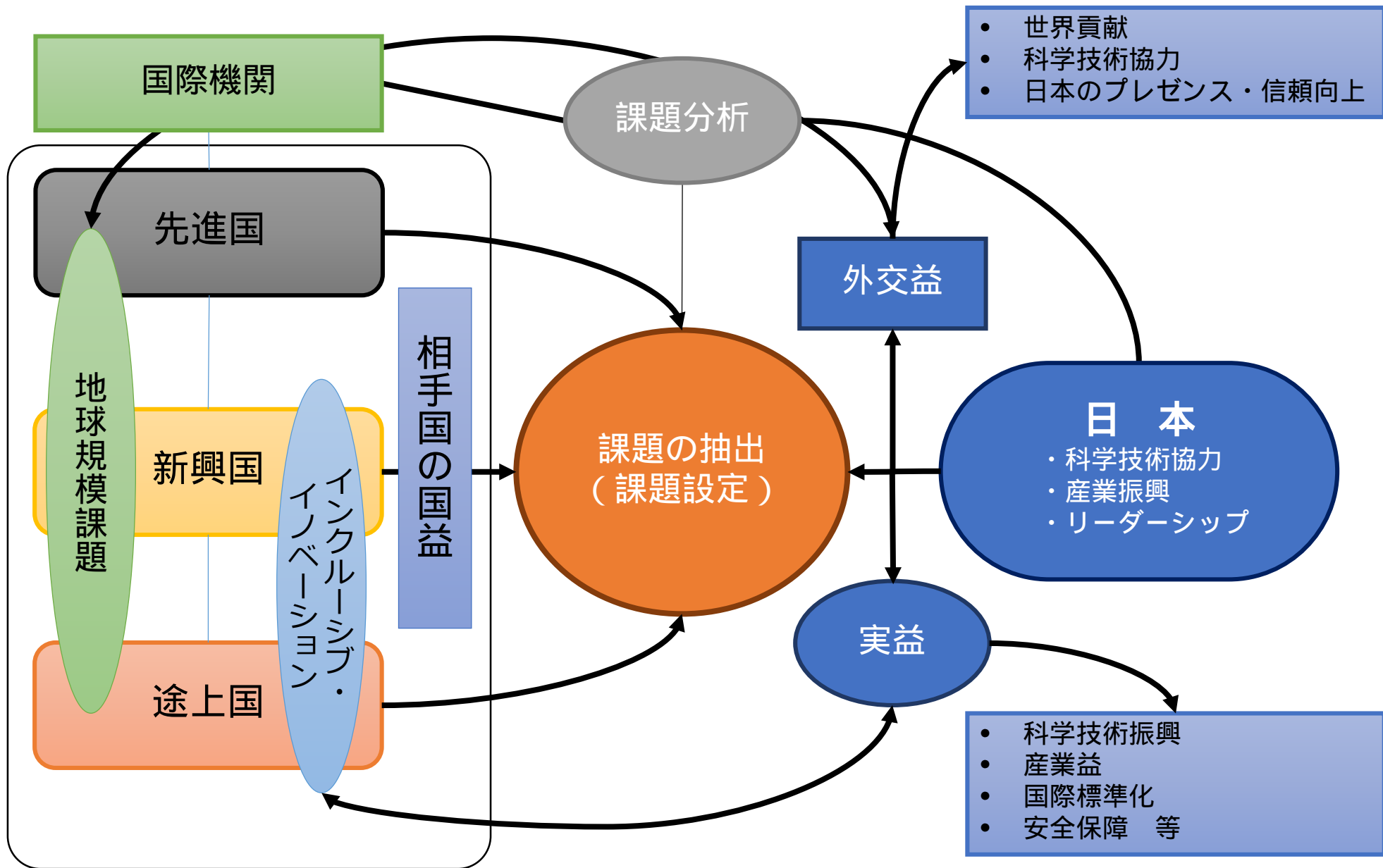
○国際的な情報発信

ü日本のプレゼンス、信頼の向上（回復）

○グローバル人材ネットワークの強化（GYA等）

国際貢献と国益

Bilateral から Multilateral へ



国益のための国際展開（国内基盤の形成）

「組織」と「人」をどう動かすか！

Trend :

- ∅ Open Science, Open Innovation, Networked science
- ∅ Shared economy, Internet economy, Data-Driven economy, ...
- ∅ Global Value Chains, Inclusive Innovation (OECD)
- ∅ SDGs, COP21 (UN)

日本の顔が見える貢献へ

国際機関 (OECD, APEC, ASEAN, WHO等) を使いこなす。

- ∅ 人材貢献 (ポジション(chair等)を得る)
- ∅ 情報源
- ∅ 課題の共有・分析
- ∅ トレンドを創る

国際協力・交流の変化（やり方が大きく変化）

- ∅ Agendaの設定が大事
- ∅ 科学技術 基礎～産業化 どこに焦点を当てるのか

地球規模課題

Cloud(crowd)network (decision maker)

- ∅ Public, non-government, International organization

Inclusive Innovationの実装

- ∅ SATREPSの後継

sustainability

国際的頭脳循環

- ∅ 海外人材の受入促進 (研究・生活環境の確保、支援制度の充実)
- ∅ 海亀政策 (海外人材呼び戻し政策) 海外経験者の優遇
- ∅ 海外で活躍する日本人研究者に対する支援策 (研究費の送金)

次代を担う若手（研究者、産業人）の国際力の改善（仕組みづくり）

GYA(Global Young Academy), WEF(Young Global Leaders), FALLING WALLS等)

科学技術国際活動実施機関（国内）

国際機関

国際的な協力協定又はガイドラインを示すなど、重要な組織として位置づけられる。



CSTI・内閣府 科学技術基本計画の策定

関係省庁

基礎研究の多様性・継続性の確保、シームレスな仕組みの構築、若手・女性研究者に魅力的な研究環境づくり、ハイリスクでインパクトのある研究や独創的な研究の強化、評価体制の強化、公正・透明で効率的な配分・使用システムの確立等

研究資金配分機関

公募により優れた研究開発課題を選定し、研究資金を配分する機関。国際共同研究の実施等に係る協定、公募等を行う。

大学・公的研究機関

科学技術政策及び公的研究資金による研究の実行責任機関。かつ、世界水準の優れた研究活動を行う実施機関

日本学術会議

我が国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関

学協会

学者・研究者たちが互いの連絡、知識や情報の交換、研究成果の発表のために組織した団体

民間非営利団体、財団

関係機関との連携により、知の共有から生まれるイノベーションを生み出す橋渡し

産業界

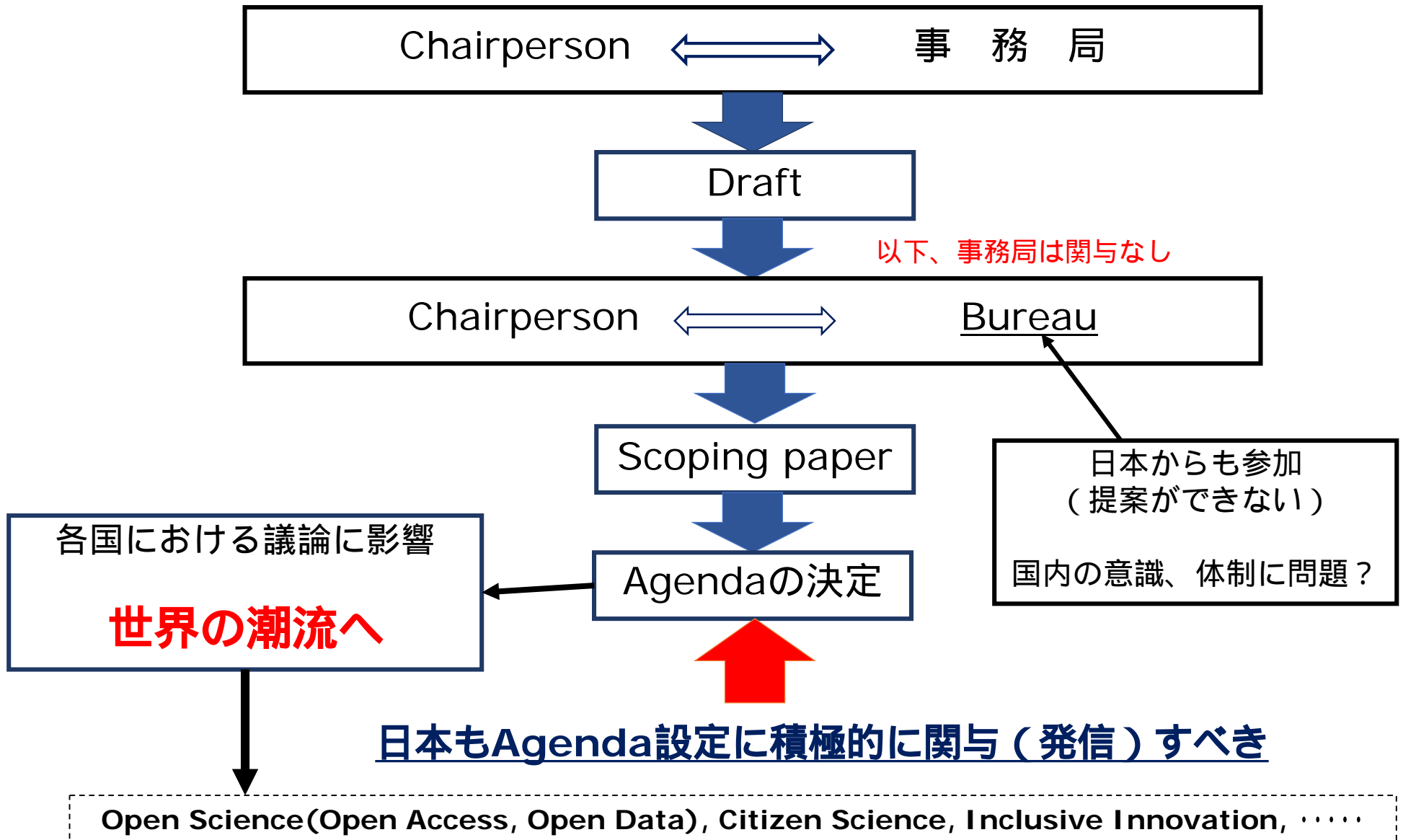
知の共有から生まれる新産業を生み出す

研究者

知の共有により研究を推進し、科学技術を発展させる立場

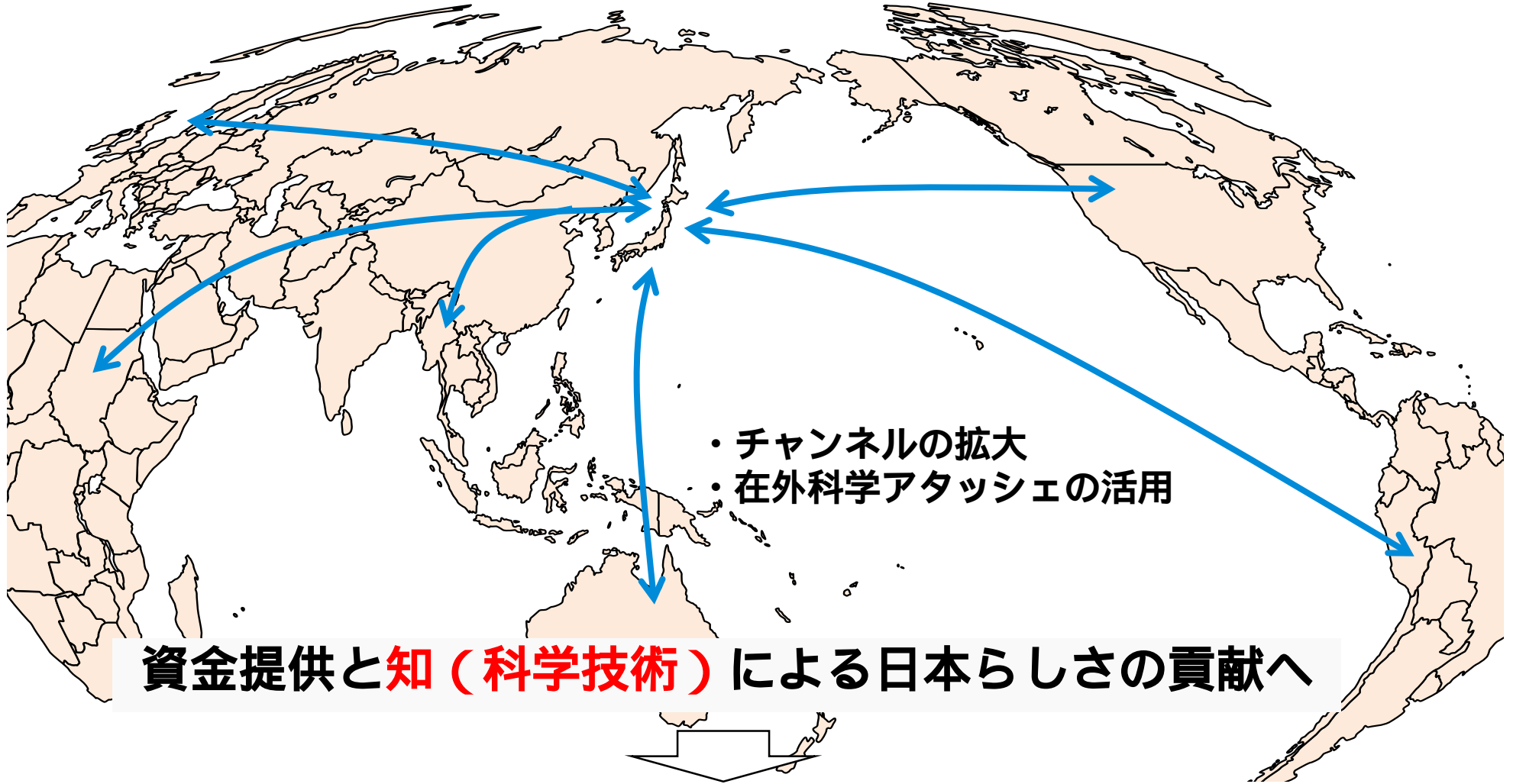
国際機関の活用

OECDにおけるAgendaの設定 (CSTP会合)



世界への架け橋

Negotiation
~ 知の共有と平和共存へ ~



資金提供と知（科学技術）による日本らしさの貢献へ

これからこういった科学技術のカードを使っていくのか！